

鶴見区区政会議 平成28年度第1回防犯・防災部会

1 日時

平成28年6月9日(木) 19時25分～20時55分

2 場所

鶴見区役所 4階 403・404会議室

3 出席者

(委員)

宗宮部会長、山下副部会長、植田委員、田中(泰)委員、西田委員

(区役所)

河村区長、秋山地域活動支援課長代理、前田地域活動支援課担当係長

4 議題

1. 平成27年度鶴見区運営方針自己評価について

5 議事

開会 19時25分

○前田地域活動支援課担当係長 ただいまから鶴見区区政会議平成28年度第1回防犯・防災部会を開会いたします。

私、本日の司会を務めさせていただきます地域活動支援課担当係長の前田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、これより議事進行を防犯・防災部会長にお願いいたします。宗宮部会長、よろしくお願いいたします。

○宗宮部会長 部会長の宗宮です。

本日は、今年度初めての部会ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、議題1 平成27年度鶴見区運営方針自己評価について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○秋山地域活動支援課長代理 地域活動支援課長代理の秋山です。今年度もよろしくお願いいたします。

ご説明をさせていただきます。

本日は、平成２７年度の鶴見区運営方針の自己評価についてでございます。この自己評価は、運営方針に記載の戦略と具体的取組につきまして、それぞれの目標の達成状況を点検していただき、有効性を評価することによって、必要な施策の改善、見直しを行い、次年度の運営方針や予算編成への反映を図ることを目的に行っております。

それでは鶴見区で行いました自己評価の前に、本日お配りしております委員評価シートのご説明をさせていただきます。

これまで運営方針の評価につきましては、区役所が自己評価を行いまして、それに対して委員の皆様からご意見を伺ってございましたが、今回は委員の皆様から直接評価をいただきたいと考えております。

つきましては、本日の部会での説明をお聞きいただいた上で、この委員評価シートによりまして、委員の皆様方ご自身で具体的取組の評価を行っていただきたいと思います。皆様方、お忙しい中大変恐縮ではございますが、何とぞご協力をいただきたいと思います。

委員評価シートの記入の仕方ですけれども、左のほうに区役所としてのめざす状態を記載しております。その右側に具体的取組ということで、平成２７年度中に実施いたしました取組みを載せさせていただきます。それぞれの取組みにつきまして、記入例にもありますように、具体的取組がめざす状態の実現にとっても有効であったと思う場合は二重丸、やや有効であったと思う場合は丸、有効・有効でなかったのどちらとも言えない場合は三角、有効でなかったと思われる場合にはバツを記入していただき、具体的取組に対するご意見がおありの場合は、一番右の欄にご記入をいただきたいと思います。

なお、取組みについてこれからご説明させていただきますが、ちょっとよくわか

らなかったということで評価できない場合には、横棒を入れていただきたいと思います。

評価は、部会の所管する経営課題を中心に、わかる範囲でご記入いただければ結構です。各部会の全部シートがついておりますので、わかられる範囲で評価をいただけたらと思います。

また、お名前は一番上のシートご記入いただきましたら、すべて入れていただかなくても大丈夫です。お手数をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

提出期限でございますが、お忙しい中、申しわけありませんけれども、6月末までとさせていただきます。よろしくお願いをいたします。

また、今日、紙でお渡しをさせていただいておりますが、以前にメールアドレスをご登録いただいている方には、後日データを送らせていただきます。

また、これまでメールアドレス登録をされていなかった委員でも、今回この部分をデータで送ってほしいということでありましたら、後ほどお伺いをさせていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、区役所が行いました自己評価と平成27年度中に実施をいたしました具体的取組についてご説明を申し上げます。

資料2の平成27年度鶴見区運営方針自己評価シート説明資料、こちらの6ページからが経営課題4 安全なまちづくりとなります。資料3 平成27年度鶴見区の主な取組み、こちらの20ページからが同じく安全なまちづくりの資料となります。ちょっと途中、両方見ていただく形になりますが、よろしくお願いをいたします。

では、資料2の経営課題4 安全なまちづくりにつきましては、大きく2点の戦略を掲げております。

1つは街頭犯罪、交通事故の少ないまちづくりとしております。

真ん中の辺りに移っていただきたいと思いますんですが、そちらに具体的取組の目標達成状況

ということで欄をつくらせていただいておりますけれども、安全で住みやすいまちと
感じている区民を増やすという目的、目標を持ちまして、主な取組実績ということで
事業を行ってまいりました。

こちらの各事業につきまして、資料３の２１ページからですね、写真で資料をつけ
させていただいておりますけれども、地域関係機関と連携した防犯対策事業というこ
とで、まず１点目が区内一斉防犯活動です。取組実績としては１２回、毎月第２金曜
日に全地域で一斉に同じ午後４時ぐらいからのスタートということで実施してまいり
ました。小学生の下校時に合わせて地域の巡視をしていただいていたんですけれども、
防犯推進委員の方が各地域で中心となっていていただきまして、子ども会ですとか女性会
など各関係機関のご協力もいただきまして、大体、各地域１５名から３０名に加えま
して、区役所職員も一緒させていただきまして、取組みを行ってまいりました。

次、左下に移りますけれども、区職員による巡視ということで、区役所には安全対
策職員が、平成２７年度につきましては６名おりました。

取組実績、青色防犯パトロールや自転車での巡視ということで、年間２４５回、ほ
ぼ毎日、区内各地域を回らせていただきました。

また、子どもの安全指導員という者がおりまして、毎日半分ずつですね、区内の小
学校などを回らせていただきまして、校長先生ですとか学校からの何かご意見もいた
だきながら、たまにちょっと子どもたちの分で地域で怪しげな方がおられたなどの情
報を聞き入れましたら、それをまた安全対策職員のほうにも伝え、その地域の巡視を
強化するなど、そういうこともやってまいりました。

次に、区役所、警察署、各地域防犯組織による合同連絡会ということで、安全なま
ちづくり推進協議会の総会を７月８日に開催してまいりました。各関係機関、区役所、
警察、小・中学校の代表ですとか地域振興会、イオンモールなどの事業所も入ってい
ただきまして、約３０名の委員の方にご参加をいただきながら、鶴見区の犯罪発生状
況を警察からご説明をいただいたり、区役所や警察が行っている取組みの確認等をし

ていただいております。平成 27 年度の活動もこういう形で進めていくということでの確認もしていただいてまいりました。

次のページに参りますけれども、かぎの取りつけキャンペーンということで、各回 100 名を対象といたしまして、区の安全対策職員によりまして、区内の公園を中心といたしまして毎月 1 回プラス休日なども実施させていただいて、年間 15 回のワイヤー錠の取りつけを行ってまいりました。こちらにつきましては自転車盗が非常に多いということで、鶴見区として実施をしておるんですけれども、多いという数字なんですけれども、こちらの資料 1 のほうにですね、これは以前からの取組みの中で部会でもお出しをさせてきてもらった表にはなるんですが、様式 2 の 13 ページのところで、安全なまちづくりの 2 段目、現状というところがございます。例えばですが、このときに鶴見区の街頭犯罪件数が平成 26 年 8 月現在で 686 件、前年より約 50 % の増加ですとか、その下、要因の分析でいくと、街頭犯罪の 6 割以上が自転車盗であるというような分析をしてまいりました。実際には平成 26 年 8 月現在で 5 割増というところなんですけれども、よくよく調べてまいりますと、平成 25 年で通常と言ったら変なんですけれども、大阪府警の認知数の出し方を変えた関係で、ちょっと多くなっているような数字にはなっておりますけれども、ただ実際に自転車盗はもう平成 25 年、平成 26 年、平成 27 年と、常に街頭犯罪の件数の中の 5 割強から 6 割のところをずっと進んでおります。平成 28 年 4 月現在でも 58 % の割合を占めている状態ですので、やはり街頭犯罪を減らす 1 つの手段としては、自転車盗、自転車盗からいろいろな犯罪にもつながりかねないということで、取組みのほうを平成 27 年度はしてまいりました。

次に、防犯カメラの設置ということで、平成 25 年度から区役所としては補助金制度も含めまして予算をとってまいりましたが、平成 27 年度につきましては 24 台、各地域のご希望も聞きました上で取りつけを行ってまいりました。

平成 21 年度からいろいろな補助金制度も含めまして、鶴見区では現在、平成 27

年度設置をした上で２３２台の防犯カメラがついているということになっております。

また、平成２７年度はこれまでも地域からご要望のありました、つけたいところに防犯カメラをつけてほしいという中で、関西電力の電柱ですとかＮＴＴの電柱が、これまで取りつけまでの時間が非常に長いとか、取りつける条件が厳しいとかで、実際にはそこを除く形での設置をお願いしてきてたところなんですけれども、平成２７年度につきましては、ちょっと実際には時間かかって申しわけなかったんですけれども、関西電力の電柱に６台、ＮＴＴには３台ということで取りつけを行ってきました。

次に、ツーロック、二重ロックのキャンペーンということで、先ほどのワイヤー錠にもつながりますけれども、自転車盗を少しでも減らしていくということで、かぎを二重につけていただきたいということで、毎月２６日をごろ合わせをさせていただいて、区役所の周辺で、単にチラシとか啓発物品を配るのではなく、安全対策職員のほうから来庁者の方に声かけをしながら啓発を行っております。

自転車盗なんですけれども、市民局のほうで詳しいデータを今、出していますが、それを見ますと、必ずしも盗られる場所というのが路上には限らないと。その他ということで半分以上を占めているんですけれども、その他は何かと言いますと、実は集合住宅とかの駐輪場が多いということになっております。もうかなり半数に近い数ですね、実際にはそういうところで盗られてしまっていると。

また、施錠をしてるかどうかで言いますと、実はかぎをかけていてもかぎをかけていないのと同じか実際にそれ以上盗られてるという実態が出ております。

大阪市としましても、そういうことも含めまして、平成２５年からですかね、街頭犯罪の抑止チームということで、夜間帯も含めまして、そういう見守りもやってきているところなんですけれども、まずは盗られない手段というのをお伝えをしてきたところでございます。

そのような防犯対策事業といたしましては、取組みを行ってきた中で、先ほどの縦長の資料のほうに戻っていただきますが、業績の目標といたしましては、区で実施し

ている防犯事業を知っていると回答した区民の割合 50 % というところで、区民アンケートを行いました結果、目標達成状況 74.6 % ということで、一番右の評価結果といたしましては、目標を達成したということで記入をさせていただいております。

続きまして、地域・関係機関と連携した交通安全対策事業となります。

取組みの内容としましては、交通事故防止や自転車マナーの向上をめざして、さまざまな年齢層に対して啓発活動等を行うことをしてまいりました。

先ほどの横長の資料の続きになりますけれども、地域・関係機関と連携した交通安全対策事業といたしまして、まず 1 点目が子育て層への交通安全教室ということで、親御さんが交通マナーを守っていただければ、やっぱり小さい子どもさんとかも見て、より安全なそういう啓発ができるのではないかとということで、各地域で行われております子育てサロンに 1 回ずつ入らせていただきました。交通安全職員がわかりやすいビデオと言いますか、パワーポイントをつくりまして、つるりっぷなんかも入れまして、子どもも目を引く形での安全教室を行ってきました。各地域大体 1 回で 10 から 15 組の親子がおられた形になっております。

2 番目が高齢者への交通安全研修ということで、警察とも連携しましてこれは行っておるんですけれども、各地域に高年者交通安全リーダーということで、老人クラブの方にもご協力をいただいております。最初の登録時点では 120 名を超える登録があったんですけれども、徐々に手の方も減ってきておりまして、最終的に平成 27 年でいきますと、約 100 名の方にご案内を差し上げて、参加者 64 名ということで来ていただきました。警察のほうから自転車の乗り方ですとか、高齢者の方になりますので、特に夜間の自転車事故の注意点とか、そういうところをやっていただきました。

参加いただいたリーダーには、リーダーの受講証というのをお渡ししておりまして、各地域での集まりのときとかに受けていただいた研修の内容とかをご周知いただくようお願いをしているところでございます。

次に、園児への交通安全教室ということで、平成２７年度につきましては、みのり保育園と菊水幼稚園に、これも警察と連携いたしまして入らせていただきました。写真を見ていただいたらわかるように、つるりっぷも出しまして、本当にわかりやすいクイズ形式の安全教室を行ってまいりました。

次のページに参りますけれども、自転車マナーアップキャンペーンということで、春・秋の交通安全週間に各２回ずつですね、区内の高校、汎愛ですとか茨田高校、鶴見商業高校もご参加をいただきまして、啓発の取組みをしております。また、関係機関にもいろいろとご参加をいただいております。

次に、スケアードストレート学習なんですけれども、取組実績としては２回になっております。平成２６年度から始めましたけれども、いろいろと高校生の通学におけるマナーが非常に悪いというようなご意見もいただいた中で、区内の２校、鶴見商業高校と茨田高校のほうからご協力をいただきまして、１年生と２年生にスケアードストレートを見ていただきました。

アンケートを取りますと、やはり９割の方が日常的に自転車をまず使っておられると。その中でマナーをどう考えているかと言うと、知っているけど守れてないという方が、またこれが６、７割位いてはるんです。そうですね、６割ぐらいが大体わかってるけど守れてないと。実際、このスケアードストレートを見たときにどう感じたか、マナーの大切さわかりましたかということで言いますと、見た直後ということもあるのかもしれないですが、そこは９０％はわかったと。そういうのを家族にも伝えたりしていきたいというのをいただいております。

次に、放置自転車追放キャンペーンということで、これも交通安全対策事業の中で行っておりますが、区内の放出駅、横堤駅、今福鶴見駅に各地域の皆様のご協力をいただきながら、毎月１回、それと平成２７年度につきましては追加実施ということで、通常８時ぐらいからの早朝で行っておるんですけれども、夕方４時からを９月から増やしまして、いろんな時間帯に撤去も含めて、こういうみんな見てるんですよとい

うようなことを周知してまいりました。

ですので、取組実績としては４５回、各地域から１０から２０名の方、また放出駅のほうでは事業所にもご協力をいただきながら実施してまいってきたところです。

このような取組みの中で、業績目標といたしましては、鶴見区全体の交通マナーが向上していると回答した区民の割合５５％以上ということにめざしてまいりましたけれども、目標達成状況は区民アンケートという形で取らせていただきました。いろいろな世代の方にアンケートを取らせていただいた中で、実際にはマナーが向上していると感じていただいた回答は３５．７％ということで、残念ながら下回っております。昨年の２７．８％よりは伸びてきて、いろいろな取組みというのが少しでも効果が出てきているのかなと思っているんですけども、評価結果といたしましては、目標未達成ということで、ただ、今まで３割に乗らなかったところが伸びておりますので、そこで言いますと、戦略に対して有効ということでは評価をさせていただいております。

この２つ、防犯対策事業と交通安全対策事業を合わせまして、このページの一番上になりますが、戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況の「安全で住みやすいまちと感じている区民の割合 平成２９年度までに７０％」というところではいきますと、平成２７年度の区民アンケートの回答は８４．７％ということで、評価結果を順調とさせていただきます。

次に続きますけれども、２点目の災害に強いまちづくりということでの取組みについてご説明申し上げます。

災害に強いまちづくりにつきましては、地震、風水害等の災害に対する区全体の危機管理対応能力が向上していると感じている区民の割合を増やすことを目的として取り組んでまいりました。

取組みの内容といたしましては、地域の自主防災力強化のため、住民、各種団体と連携した訓練等を行うとしてまいりまして、次に主な取組実績なんですけれども、こ

れもまた横長の資料と合わせながら見ていただきたいんですが、まず1点目が避難所開設運営訓練等、こちらが平成27年度ですべての地域で取り組んでいただけたこととなりました。平均約300～800名ということで、各地域でいろいろと内容も組み立てていただく中に、区役所も参加させていただきながら、こういう訓練の取り組みをしていただきました。

次に、左下の鶴見区の震災訓練なんですけれども、11月29日に実施してまいりました。

中身としては、2本立てには実際になっておりまして、1つが安全・安心フェスタということで、防災にとどまらず、防犯、交通安全の内容も含めました関係機関のブースの展示・体験型のフェスタをやりまして、また一方で、つるみんピックと言いまして、区内におられます各防災リーダーさんが実際に消防署で学ばれたいろいろな技術を、各連合ごとで競技会形式で争っていただくという鶴見区独自の取り組みだと思っておるんですけれども、開催してまいりました。参加者約600名ということで実施してきたところです。

次に、小学校区内の災害図上訓練で、平成27年度といたしましては、取組実績1地域となっておりますが、これまで各地域で取り組んでいただいております、累計でいきますと12回目、9地域が実施をしていただいているところです。

図上訓練は、各地域の特性ですね、地図を見ながら自分たちの住んでいる地域がどういうところかということで、いろいろと知っていただきながら、その後の災害対策につなげていくということを目的として行っております。

次に移りますけれども、地域防災計画の策定 1地域ということで、皆様方ご存じだと思えるんですけれども、区といたしましては、区地域防災計画というのがあります。すごく大きな流れで災害時の取組みですとか、そういうことに備えての計画を立てておるんですけれども、実際にはそれは大きい区の枠になりますので、大阪市といたしましては、やっぱり各地域が地域実情、地域の特性を盛り込んだり、またそれぞれの

体制ですね、町会が中心になるのか、そのほかのリーダーさんが中心になるのかとか、いろいろあると思うんですが、そういう内容を盛り込んだ地域の防災計画をつくっていただきたいと思っておるところです。

平成２７年度、茨田西地域のほうから実はお声かけがありまして、約９割方つくっていただいているんですけども、３回ぐらい町会長も何人が集まっていたいただいた勉強会を実施もしながら、災害時にはこういう体制で動こうとか、いわゆる役員さんたち、中心となられる方がこの計画をつくって、自分たちが代わったときでもこの計画を見てもらったら、いざ災害のときに動いてもらえらるというものをつくりたいということで、つくってまいりました。

次に、防災マップなんですけれども、こちら先ほどの図上訓練を受けた後に大体つくっていただくんですけども、いざ災害のときにどういうふうに避難をすればいいのかとか、どういうところが自分たちの弱みのところになるのかというところで、防災マップの作成もお声かけをしていたんですけども、その中でいきますと、平成２７年度は鶴見北地域のほうでつくっていただきました。合計５地域ということになってきております。

次が最後、出前講座になってまいりますけれども、取組実績１０回ということにさせていただいております。この中には小学校の土曜授業や社会福祉事業所連絡会のいわゆる企業体への研修会も入っております。

また、平成２７年度の区役所として初めての取組みでいきますと、実は中学校のほうにやっと入れることができました。これまで小学校につきましては大体、地域の震災訓練を行うときに小学校で実施をしていただいている関係もありまして、あわせて土曜授業なりほかのコマでもですね、災害の勉強をしたいということのお声かけがあるんですけども、実は中学校はなかなか今までそういうお声かけもなかったですし、声をかけに行ったときも、いわゆるカリキュラムがもうびっちりあるということになってたんですけども、これは地域からも声が挙がっているところがあるんですけども、

ども、実際の災害時に万が一、大人が少ない時間帯、どこが中心になるのかと言いますと、中学生というのは非常に大きい災害時の力になるということで、区役所のほうから何かできないかなということがありましたので、教育行政連絡会などの場も通じまして、ぜひちょっとしたことでもいいので区役所一緒にさせていただきたいという声かけをした中で、昨年度については茨田北中学校と今津中学校のほうで授業の1コマをいただいていたところですよ。

また、今年度も区役所は行きたいと思っておるんですが、そのような取組みを防災としましては行ってまいりました。

業績目標といたしましては、「防災に対する理解が高まったと感じる区民の割合80%以上」ということで取り組んでまいりまして、目標達成の状況といたしましては、ちょっと下回りまして76.6%という数字が出ております。少し下回ってはいるんですけども、先ほどもちょっと話の中に入っておりますが、まず避難所開設訓練がこれまで全部の地域では行っていただけなかったのが、平成27年度で全地域取り組んでいただけたということと、地域防災計画に取り組んでいただけるようになったということで、私どもの自己評価については目標達成とさせていただいております。

最後の一番上の、戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況なんですけれども、地震、風水害等の災害に対する区全体の危機管理対応能力が向上していると感じている区民の割合が平成29年度までに70%以上となっております。これにつきましても区民アンケートの中で実際には数字を取ってまいりまして、平成27年度は平成26年度の28%から大きく伸びたとは思っておるんですが、実は40.5%ということで下回っております。

ただ、やっぱりこれだけの伸びが出てきているということでいきますと、めざしている方向性はいいのかなと。この方向性でやっていきたいということで、順調とさせていただいております。

ただ、一定、区民アンケートの中で、この数字が伸びる1つの要因として、実際取

り組んでいただいている訓練の場とかでアンケートを取れば、非常に大きいのかなと思ってるんです。じかにも感じていただけるかなと思ってるんですけども、なかなかそういう機会もない方のところで、こういう危機管理対応能力が伸びているかというのをどう感じるかというところではあるかなと思うんですが、やっぱり区や地域がこれだけいろんな取り組みをしてるということを、まずもっと情報発信してですね、知っていただく機会自体をつくらないといけないかなというのを反省しております。

また、平成28年度についてはそういう広報の部分も含めまして、頑張っていって、それを知っていただければ、またここの数字も変わってくるかなと思っております。

そういうことで、今回、私どもといたしましてはこのような評価をさせていただいております。これでご説明を終わらせていただきたいと思います。

○宗宮部会長　　今、長時間にわたって説明いただいたんですけども、今の説明について何かご意見、ご質問ございますか。

○西田委員　　よろしいか。ちょっと聞きたいんで。第2金曜日の一斉行動ね、これ大体どこでもどれぐらいの人がかかわってこれやっていますか。データと言うんか、出てたらちょっと教えてください。

○秋山地域活動支援課長代理　　実際に当日の参加人数でいきますと、大体15～30人は行かないと思う、20人少しぐらいの地域の方が今、やってくださっています。

○西田委員　　私は茨田南ですねんけども、私も行ったり行かなんだりしているけども、うちは2カ所で分かれてやりますんで、大体30人近くおると思うんですよ。それは普通かどうか。逆にもっと増やしてやるべきもんか。私はそのぐらいでいいかなと思っておりますけどね。

それともう1点ね、人数的にはいいとして、例えば皆さんたすきかけてね、そのままぞろぞろと歩いているだけということはちょっと意味ないのと違うかな。うちはね、拡声機持ってね、言うてますねん。一斉行動で皆さん気をつけてどうかと言うて、もうだれかがね、防犯のだれかが言うたり、交代でやってね、それで回っているとい

う現状なんですよ。他の連合はどうかなって、聞いているのであれば教えてほしいなと思って。ありますか。私のところは、ただ回っているだけでは能ないのと違うかなと思って。以前からそういう話、一遍聞きたかったんやけどね。

○秋山地域活動支援課長代理　そうですね、私も実際に参加させていただける立場となったのが昨年からになっているのであれなんですけれども、そもそも立ち上げの当時はですね、警察も一緒に入っていて、登り旗ですとか、それこそ拡声機とかでかなり大々的にやっていたいたというのは聞いております。

ただ、それがちょっとどれくらい続いてからかは、ごめんなさい、ちょっと今、調べ切れてないんですけれども、実際には警察のほうからですね、そのやり方につきまして。

○山下副部長　ノーが出ましたね。

○秋山地域活動支援課長代理　ちょっとノーが出てしまいまして、もうちょっとおとなしくと言ったら変なんですけど。

○西田委員　多分、山下委員やったら知っていると思うけど、うち4時過ぎに回ってて、あんたところと分かれるからな、多分聞いてくれると思ってんねんけど、うちも拡声機持ってやっているからね。

○山下副部長　うちは茨田西なんですけど、実際わーわー言うてはないんですよ。はっきり言って回っているだけの状態に近いんですけど、もう1つの側面としてですね、僕、参加されている方自身の自己啓発という面もとらえているんですよ。要するに参加してはる人自身が地域犯罪に関心を持ってもらう、安全確保を意識するということを参加されている方自身が意識してくださいよということ、そういう人が1人でも増えていくことが、来ていただいていることの意味合いの1つの側面でもあるので。

○西田委員　そのときはね、代わった人が来てくれたらそれであなたが言うてるのは正しいと思う。そやけど、同じ人ばかりやからね、大体そうですよ。

○山下副部長　ああ、そうなんですよ。うちはできるだけたくさんのいろんな人

に協力をお願いするようにはしています。

○西田委員　　そうであれば、山下委員の言われるとおりやと思うけど。

○秋山地域活動支援課長代理　　実際いろんな声がもうやはり何年かやらせていただいているので聞こえてきてまして。

○山下副部長　　マンネリ化ですわね、正直。

○秋山地域活動支援課長代理　　マンネリ化と、あと、会長がおっしゃってるみたいに、以前からで言うと、これだけやれてた活動をあかんと言いながら進めててるのはどうなのかとか、本当にいろいろ聞いてます。

去年は防犯推進委員さんに集まっていたくという会議ができてませんでして、非常に反省してるんですけども、今年度はぜひ集まっていだいて、忌憚のない意見もお伺いしながら、最終的にはこのやり方を考えないといけないのかなというのはちょっと思ってるんですけど、ただやっぱり一斉にあの時間であれだけの人数の方が動くというのは、本当に鶴見独自だと思うんです。だからやり方をどうやっていけば、より参加していただいている方もやりがいがあって、周り、子どもさんとか見ておられる方についても、これだけやってるんやというのを写らせていただけるのかというのは、平成28年度の課題だと思ってます。

○宗宮部長　　4 - 1の今のお話、順番にそうなっていますので、とりあえず4 - 1のところで街頭犯罪、交通事故の少ないまちづくりというところで若干、意見交換をしてもらいたいというふうに思います。今、防犯の日の取組みについて、ちょっと経過及び会議を持ってやり方自体もう一遍再編せなあかんというご意見が出ていて、今、西田委員がおっしゃっていたように、たくさんの人が参加して交代していくということであれば、今の形というのは有効だけれども、同じメンバーで毎月同じようなコースを回っているということであれば、せっかくの取組みが長い期間続いているにもかかわらず、ちょっと効果としては疑問というふうなことがあるんじゃないかということが出ていますので、やっぱり交代できるような形を取っていくのか、あるいは

同じメンバーで工夫を凝らしていくというやり方を取るのかということについては、地域によって特色というのはそれなりにあるやろうと思いますけれども、始まったころ、警察が非常に熱心だったというふうなことからすると、やっぱりその練り直しみたいなことは当然必要なのかなという感じはしますね。

冒頭、ちょっと説明のところでふれてもらったんですが、資料の1で犯罪が5割増しやということであつたら、幾らできていると言っても話自体が浮いてしまうなということで、犯罪が5割増しやというところをちょっと調べていただいたら、カウントの仕方の問題やったというようなことで、ただ全体として自転車盗は増えているとか、あるいはマナーにかかわって非常に問題であるという指摘が多い。現実にはマナーがやっぱり乱れているというふうなことが実態としてあるんだろうと思います。

7月に自転車条例が府条例ですか、施行されるというタイミングがありますので、もうそういう意味で言ったら間はないんですけれども、マナーの問題であるとか、自転車盗の防止というところで、平成27年度の実績として一応目標達成、もう1つは目標未達成という形になってますけれども、こういったところが問題だったのかということ、もうちょっと掘り下げられたら、ちょっとご意見いただきたいと思います。

区役所としてツーロックキャンペーン、26日に二重ロックというね、そういう工夫を凝らした取組を継続的にやっていただいているということで、目標達成ということだと思いますけれども、青色防犯パトロールとか、そういった取組というのは現実には鶴見区の全連合で相当熱心な取組をされているということで、ここの目標達成というのは納得できる線やなと思うんですが、やっぱり交通安全、事故防止、交通事故も増えているということですし、マナーの向上をめざすというところでは目標未達成と。

全体を通して見ましたら、秋山代理も言うてはりましたけども、どこも評価いいんですよ。ここの部会の内容についてだけなかなか厳しいというようなことで、課題が

課題なのでそれはそれで仕方がないのかな、数字だけ挙げてても全く意味のないことになりますから、実態としてどうなのかということが大事なことだろうと思いますので、そういった意味で平成27年度に取り組んだところで未達成になっているという状況について、ちょっと切り込めるところがあればと思うんですけども。

○山下副部長 　　ちょっとすみません、今いいですか。

実態という意味で数値で評価しているんですけど、業績目標の欄に50%以上とか55%以上と、そういう数字が入っていますよね。これの根拠がちょっといまいよくわからないのと。

これひょっとしたら、正しい評価というのは、知っている人が増えている割合が増えているという意味であれば、対前年比10%以上であれば目標達成だとか、そういう評価の仕方、対前年比5%なら丸とか、対前年比0%なら方向性は合ってるけれどちょっと努力が足りないのかなとか。あくまでも本来めざすは100%なはずなんですよね。だから100%をめざすけれども、前年よりは知っている人が増えたよという評価のほうで、実態としては正しいんじゃないかなと思いますけど。このフォーマットがあって、そういうふうに書きなさいというふうにされているんだったらあれなんですけど、実際これ5ポイント、6ポイントぐらいですか、増えているわけなんだから、これを、これは目標達成していますけど、その下の4-1-2に関しても、55%というのはぼんと出てしまってるから、35.7%というふうなところで未達成になっているけど、実は前年よりはポイント稼いでいるんですね、確か。

○秋山地域活動支援課長代理 　　そうです。前は27.8%だったので。

○山下副部長 　　ですよね。ということは8%稼いでいるわけですよね。それって実は評価されるべき数字なはずなんですよ。だからそれをあらわそうとすれば、この業績目標と言うか、評価の仕方がひょっとしたら間違っているのかもしれないね。だから対前年比で10ポイント稼ぐとか。10ポイントはきついですけどね、5ポイント。

○秋山地域活動支援課長代理　この前で言うと、ここの対前年度比何％ではなくて、文言で入れていて、去年より交通マナーが向上していると感じますかと言ったら、かなり低かったんです。だからどれだけよくなっているのかと言われたら、よくなっているのではないかというのが、率直な皆さんの意見なのかなと思って。その中で、マナーがどうなのという数値を取ろうとしてこういう形になっていますが、おっしゃっているように、本当に対前年比、感じる数字がどう動いているかというのが大事ですね。

○山下副部長　それと、ちょっと話をもう1つ。防犯事業を知っているという話なんですけれども、この防犯事業の中身をばらされているかどうかですね。要するに、防犯事業は例えば主な取組みとして、一斉行動と青パトと市民が知るべきとしてはツーロックの日と防犯カメラの設置、この4つぐらいは本来、市民がよく目にするであろう事業なわけですよ。このうちのどれを知っていますかというアンケートの仕方が取れているかどうかですね。だから、ただ単に防犯事業を知っていますというふうにくくっちゃうと、ぼやけてしまいますよね、ポイントがね。確かにもう青パトはみんな知ってはると思います。もうこれだけみんな12地域とも頑張って走り回っていますし。榎本は2台か3台か走っていますか。

○宗宮部長　いえいえ、1台ですよ。

○山下副部長　ああ、1台なんですか。ありがとうございます。

走り回っていて、もう見ない日はないですよ、逆に言ったらね。だから青パトは、例えば青パト知っていますかと言ったら、ひょっとしたらもう100%来るかもしれないですね。だから事業をばらすこととかアンケートの取り方とかというのも1つ必要なのかもしれないですし、要するにそこで知られてない、低い率で出てきたところはちょっと力入れなあかんのと違うかという、具体的な取組みの方向性というのが見えてくるんじゃないかなと思います。

○宗宮部長　今ありました山下委員の言っている分析の仕方、評価の仕方という

のは、目標をどこに持っていくのかということから言うと、非常に的を射た話だと思いますね。

○西田委員 部会長、よろしいですか。それとね、ちょっと聞きたいねんけども、防犯カメラについてね、今、区では232台ついていると言うたね。榎本なんかちょこちょこ聞いているんやけど、事故があつたりとかあるんで、皆さんよく見に来ているというのは聞いているんやけどね、あれ大体、事故あればそら大変やけども、当然、事件でもあるとね、カメラをテレビ映して見たり、我々も1回ぐらいしたことあるんやけどね、最近はそういう映して皆、見ているというようなこと聞いてはりますか。

○秋山地域活動支援課長代理 見ているというのは、警察がということで。

○西田委員 もちろん警察の関係もあるやろけども、例えば榎本で駅前に置いている分で事故があつたと。自転車の接触事故があつたとか、けがしたとか、その時間帯にね、カメラ写っているかわからんから見たりする、そういうようなことでね。

○秋山地域活動支援課長代理 ありますね。やっぱりぱらぱら。

○西田委員 よくありますか、それは。

○秋山地域活動支援課長代理 はい、問い合わせがあります。先日、会長のところで実際ありましたよね。

○西田委員 実はうちがあつたからちょっとそれを聞きたかってん。

○秋山地域活動支援課長代理 あります。1年に何件も、去年でも警察官から私5件、6件は直接聞きました。

○西田委員 私が何でもかこういことを聞いたかと言うとね、おととい警察が家のほうに朝7時ごろ来たんですよ。ほんで何かと思った、朝早うから、おれ何かしたんかなと思って。何でいるのかなということやってん。

そしたらね、1週間前に今津公園でちょっと掃除しているとね、もともとはね、鳥やったんやけど人間らしいというようなことらしい。人間の一部やということで、聞いてないですか。

○秋山地域活動支援課長代理 そこまで聞いてないです。警察はそこまで言ってくれないから。

○西田委員 そういうことで、うちの中公園にそれはあったんですよ。そういうことで1週間前に今津公園でそういうこともありましたというて、諸口のうちの公園のところでそういうことがあったということで、朝、掃除してる人がね、これおかしいと、普通のと違うと。死体がね、一部、人間のじゃないかというような話だったんや。ほんならすぐにやっぱり見んとあかんやん、警察も。たまたま7日やったんや、その話は。8日に小学校の運動会やったから、私も朝からおらんかって、警察に電話もろたけども、私は昼までちょっと無理やから昼からにしてやということで、1時半ぐらいに来てもらって、ほんでまたうち2つついてんねん。公園の中と、それからちょうど交差になってますねん、信号のない交差ですんで、そこでも事故があったもんやからね、急遽そこにもつけてもうたんですよ。ところが公園の中を見たいと言うわけね。ところがそれが平成24年度につけてるもんやから古いからね、そのときの私、名刺も携帯に入ってたんや。名前は知ってんねんけど、おれの携帯の電話番号は向こうに入ってたんねんけど、私は入れてなかった、これにね。ほんでまた来てくれるのはええねんけど、あっちこっち名刺探したんやけど、これやったらちょっと無理かなと思って、巡査さんにちょっと待っていただいて、やっと出てきたから連絡してん。小谷君にも連絡入れたんや。多分それ知っていると思うけど。それで警察に連絡して、とにかく外してくれと。新しいほうは私、預かってんねんけどね、古いやつはないからあけられへんからどうしたらええのかわからんもんやから、すぐ必要で。もうそれやったら警察に直接電話して聞いてくれたらええと思って、担当の人が2人来てたから1人これちょっと聞いてやと言うて電話で聞いてもうて、もうそのまま公園のほうへ時間合わせて行ってくださいよということで、その結果はまだ聞いてないんやけど、もう2日たってんやけどね。どうやら聞くところによると、何か鳥の死骸らしいということらしいわ。そやからよかったなと言うてんねんけどね。それが人骨

やったら大変やもんな。

そういうこともあるんでね、やっぱり防犯カメラはね。その前はね、ちょうど交差
なってますんでね、逆行でね、よその家にばんとつき当たってしまいよって。それも
ね、警察へ言うてあんなねんけどね。

そんなこともあるんでね、これはもう絶対、防犯カメラは必ず役に立つ。新聞沙汰
によくなっているようにね、あんな子どもでも誘拐されて、どこそこでコンビニに寄
ったとかね、ようあれわかるやんか。そういう面ではね、防犯カメラは絶対役に立つ
んでね、やはりこれから本年度も連合で2台ですか、皆で30台ね。

○秋山地域活動支援課長代理 30台ですね、ちょっと増やさせていただいたんで
すけど。

○西田委員 30台してくれるんで、大体2台はいけますんでね、我々も通りには
やっぱりそういうことが必要やなと。それで今まであまり、うちの連合はそんなに必
要やないような話やったからしてませんでしてん。よそにしたりいな、したらええが
なと言うてたけど、もうそういうこと言うてられんから、やっぱりうちもせんとあか
んなと言うて、この間、町会の会議でもやいやい言うたところやねんわ。

そんなこともあるんでね、いろいろ絶対役立つと思うんで。そんなことでした。

○宗宮部会長 この間、連長から資料を見せてもらったんですけど、これは秋山代
理、力作ですよ。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね。安全対策職員と一緒に作成させていた
だきました。資料としては各地域の分だけ情報提供させてもらっているんですけど。

○西田委員 マップやろ。

○秋山地域活動支援課長代理 はい、マップです。そこに落ちていきますのが平成2
1年から平成26年まで、大阪市として取りつけたカメラの向きも含めて図面化させ
てもらったものと、プラス5年間の安まちメールなどのいわゆる街頭犯罪の情報を図
示させてもらいました。これまで区役所として、現場は当然確認するんですけど、お

っしゃっていただいたところに設置したという感じになっていたので、実際それは地域のほうでもよくお考えいただいていると思うんですけど、どういうふうについているのか、区役所では実はわかってなかったなということになりまして、今後の設置時の方向性と言うか、もしですけれども、地域の方にもアドバイスを逆にできたりするのかなということで、半年ぐらいかかりまして、安全対策職員が区内を回らせていただいて。カメラがここにあるというのは住所は見たらわかるんですけど、どっち向いているかわからなかったら意味ないなということで作成いたしました。

○宗宮部会長　これは昨年、山下委員がやみくもにつけりゃあええっていうもんやなくて、やっぱりどういったつけ方をすれば効果的なのかという専門家の助言ももらいながら、ただ数を増やすんじゃなくて、効果的な設置の仕方という指摘がこの中であったことを言うたら、区役所が形にした。非常にそういう意味で言ったら、区役所が頑張ってくれているという中身やと思うんですけども、これ区役所が頑張ってるんけど、これをどう生かすねんというところでやっぱりぜひね、いろんな活用の仕方ができるやろうと思うので、こういった情報を区役所から提供してもらって、地域がこれをどう見て活用していくのかというところにまで行かへんかったら、これつくったで終わってしまったら非常にもったいない資料やな。今、西田委員言ってはるように、実際に起こった事件に対して、それをサポートしていく道具として重要な役割を果たしているということがあるわけですから、やっぱりプライバシーの問題とかいろいろ言いはる人も中にはいてはるわけで、これだけ効果があるし、これだけ抑止の力にもなっているんだということを一方でアピールする。こういったことを区役所がやってはるということがアピール力にもなっていくかというふうに思いますんでね。昨年のこの場を受けて、区が動いてくれているというふうに思いましたんで、非常にいい流れなのかなと思います。

○西田委員　これは、秋山代理と抑止でつくった分。

○秋山地域活動支援課長代理　そうです。

○西田委員 警察もつくってなかったか、以前。

○秋山地域活動支援課長代理 警察もつくってはるんですかね、警察は警察でね。

私もほかの区といろんな情報交換をしてると、結構、警察独自でつけてるのもあり得るらしいんですけど、それでも区役所だからと言って教えてくれないんですよ。だからちょっと。

○山下副部長 事務所の前とか、そなんあるんですよ。

○秋山地域活動支援課長代理 それは独自の分もあるらしいというのは聞いているので。

○山下副部長 国家機密ですね。

○秋山地域活動支援課長代理 それを全部オープンにして地域のご相談に乗るときの一資料にできるかと言うと、実は難しいのかなとは思っているんですけど。

○宗宮部長 そなん警察にもらったらええやんって、僕なんかも思ったんですわ。そやけど考えてみたら出さへんわと思ってね。ほんで実際にやるとなったら、だれかが汗かけへんかったらあかんという話で、榎本に既についているのはどこか出せというふうに言われて、一生懸命書いて出して、ほんでそれほんまにできるんかいなと思ったら。

○秋山地域活動支援課長代理 地域独自でつけておられるのも榎本さんもありますし、今津さんもつけているし、それも本当はトータルで。

○西田委員 それは特に榎本とか今津とか鶴見はな、絶対やっとかんと大変やで、多いねんもん、件数が。

○秋山地域活動支援課長代理 それもあわせてでない意味ないなと思ったんですけど、もうとてつもない量になってきまして。

○西田委員 そやろ。またあそこかって、場所ないところやとかね、そなんようあるわな。

○宗宮部長 ただ、使い方が何か考えられるなというふうに思いますんで、もう

ここまでやったら次の活用の仕方というのをぜひやってもらいたいというのと、去年の資料見つからへんかったんですけども、警察の分は毎年連合ごとの街頭犯罪件数、出してますよね。去年のやつ見つからへんかって、出てるんやったら早いことやっばりね。

○西田委員 毎年これ、うちももらいに行きまんねん、別にわざわざもろてね。

○宗宮部会長 ああ、もらいに行った。連長からもろたやつはおととしのやつなんで、去年のがない。

○西田委員 そやろ、おれが必ず警察に行ってもうてきまんねん、それ。

○宗宮部会長 警察行ったらくれる。

こういった犯罪件数、こういった内容のものなのかというのをやっぱり知った上で、それに対して有効な対策ということで、対応していかなあかんやろうというふうな感じはします。

特定の年代ということで、自転車盗がもしあるのであれば、そこに重点的にというふうなこととか。

○秋山地域活動支援課長代理 やっぱり自転車利用の多い10代、20代が半分以上、これもやっぱり6、7割ぐらいなんです。だから学校にこれからまたどう入っていく機会があるかなんですけど、そういうところをとらまえてなのかなと思ってます。

○山下副部会長 そういう人って駅前近辺でやることが多いでしょう。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね。そういう人たちで言うとな。

○山下副部会長 さっき、集合住宅でもいかれてますよという話がひっかかったんで。

○秋山地域活動支援課長代理 一応、市民局のほうで定期的に数字を出してくれてまして、それを改めて見直してますと、そうなんです、半分ぐらいはその他、要は道路上ではないと。

○山下副部会長 ということは、ある程度、組織だった人間がねらいをさだめてと

いうところになるのかなと思うと、例えば捕まった実態で犯人像が見えてきたという実績はまだ出てないね。

○秋山地域活動支援課長代理　それは、前もちょっとご意見いただいたんで、警察には聞いてみたんです。こういうことからいろんな犯罪へのつながりとか、そういうものも見えてくると違うかと言われてますと。実際そういう統計を取られてますかと言ったら、ないと言われて、そんなご意見あるんやというのは逆にびっくりしてはったんですけどね。

○宗宮部会長　団地の駐輪場ということが特徴的なんやったら、防犯カメラをそこへつけてもらうというのは、たちまち抑止になるというふうなことだってありますよね。

○秋山地域活動支援課長代理　どっちがいいのかというのは悩むところなんですけど、今、区役所として思っていますのは、やっぱり抑止やと思っていますので、それでいくとそういうとことか。

○宗宮部会長　ライトがつくようにするとかというふうな。

○秋山地域活動支援課長代理　そうですね、それも一時期やりかけてましたけど、なかなか。

○宗宮部会長　ちょっと時間もせってくるんで、もう1つ、スケアードストレート学習ですね、2回やったということで、これらの評価、高校でということですが、さらにオープンに見に行けるような持ち方というふうなことも前にも出ていたと思いますので、この2回やったということの評価と、来年どうしていくのかというところもちょっとお聞かせいただけたらと思いますけど。

○秋山地域活動支援課長代理　今回、高校に入ったのもまずは区政会議のご意見も受けた上だったんですけど、学校の閉じられた中でやっていても、もっと広く周知すべきとのご意見もいただいて、平成28年度については2回分の予算の確保ができましたので、区内に高校が3校ありますので実施できていない汎愛高校には、やっぱ

り市立高校というのもあり、お声かけさせてもらいました。そうしましたら、やりたいということで回答いただいたので行かせていただきます。

残り1回は多くの人ということで考えた中で、区民まつりも考えたんですけども、大芝生ではどうかなとか思ったんですが、残念ながら、これは人数が多過ぎると。時間中ずっとやるわけではないので、人が動いている中でやりたい時間だけ大芝生のところを確保するというのが安全上でも非常に難しいかなと思ひまして、今回思ってますのが、安全・安心フェスタ。先ほどもお話の中で、災害だけでなく、防犯とか交通安全も広めていますということで申し上げましたが、今年でいきますと、体験型のところを大きくさせていただいて、つるみんピックをちょっと実は別の機会に別の場所ということで、今やろうかなと思っております。

スケアードストレートを安全・安心フェスタ、今年は鶴見緑地のハナミズキホールで実施いたしますので、そこで多くの方に見ていただけないかなと。例えば小学校とか中学校にもチラシを配布したり、休みの日ですので、ぜひ参加してほしいというのと、あわせて防災のことなんかも体験できるコーナーをつくりますので、防災リーダーさんにもご協力をいただきながら、いろんな体験をしていただけたらと思っております。

○西田委員 平成26年度にね、緑の関目自動車学校でこれやりました。あれは緑の連合がやったんやね、何か主催、ちょっとおれもようわからんかってんけどね。

○秋山地域活動支援課長代理 最終的には鶴見区の子ども会さんとの協力になっていきます。

ただ、やっぱり場所的に言うと、実際、左上と言うたら変なんですけど、やっぱり緑地域に近い方が中心になったというようなことは聞いています。

○西田委員 それで、ことはこういう大々的じゃなかったけども、緑連合でやって、私一応挨拶に行ったんやわ、こないだね。挨拶しようと思ったんと違うねんけど、森岡署長がね、一緒に挨拶せんとあかんがなと言われてやね、おれも急遽ピンチヒッ

ターみたいに挨拶させてもうてんけども。

2年ぐらい前、平成26年にはね、あの場所でスタントマンと言うか、これもう大々的にやりました。これやったらもっと大々的にやったらええやないかということ言うてたんやけどね。今、見たら高校でしているということやったからね。区民が皆、見に行ったら広い場所があればね、すごいこれは値打ちあるよ。そらほんまに怖いよ。もう車ばっと来て、横から自転車ね。ようけがせんなと思うほどばーんと上がって回転してるもん。そんな迫力あるよ、すごく。

○秋山地域活動支援課長代理　そうですね、今ちょっとスケジュールを悩んでいるんですけど、一応インターバル置いてもらったらできますとは言われているんです。

○山下副部長　3講演とか4講演とかできる。

○秋山地域活動支援課長代理　3講演、4講演はちょっと。2講演ぐらいは、例えばなんですけど安全安心フェスタの頭でやって、いろいろブース体験してもらって、今まででしたら大体1時ごろ終わるんですけど、その1時にやったら3時間。2～3時間あけたら多分、自転車とかをがっと思はるんですよ。ぶつかったやつを。

○西田委員　そうそう。女の子もいてたけど必死やで、すごかった。

○秋山地域活動支援課長代理　今回、実は交通局も参加したいというお声かけがありまして、大型バスですね、持ってきてもらって、そこの視覚体験なんかも一緒にスタントの中に入れてほしいと言われているので。

○西田委員　どれぐらいいいってんの。相当いいってんの。

○山下副部長　連合でもやろうと思ったら。

○秋山地域活動支援課長代理　実は、結構高いんです。業者が東京にしかいないんです。

○西田委員　そら7、8人かかっているし、車やろ。

○秋山地域活動支援課長代理　そう。7、8人が時間帯によりますけど、前乗りしはるんで、要は宿泊代とかも入れられちゃうんです。そしたら実は1回で50万円な

んです。

○西田委員 やっぱそれくらい要るねんな。そら人数でも7、8人かかってるもん。ほんで古い車やけどやな、もう後何もできひんわな、いがんでもうたらな。

○秋山地域活動支援課長代理 だからね、学校さんとかも実は中学校さんが聞いてこられて、やってほしいって言われているんですけど。なかなか5校全部回るかといったら……。あと実際、予算の今後の話で言いますと、やっぱりイベント系になりますのでね、いつまでもというのは。ちょっと違う方向でまたうまくつなげるように努力をするようにと言われてますんで、来年もできるかどうかと言われると、確約はできない状態なんですけど。

○山下副部長 学校の中で行事と言うか、学校のスケジュールの中で落とし込みたいという話なんですか。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね。実際、高校なんかでいくと、2コマ、2時間ですね、後ろ5時間目・6時間目を取っていただいてやってます。警察も実際に来てもらって、講義もしてもらった上でスケアードも見てもらおうというような流れをしてきました。

○山下副部長 できん話じゃないですね。

○秋山地域活動支援課長代理 できない話ではないんですけど、できたら近くの学校に集まってもらって、2、3校一遍にできたら非常に助かるんですけど、そこが各校の授業のコマがどうなのかと、あとは区がどれだけ予算をとれるかという問題には。

○山下副部長 学校は学校で校長戦略予算を持っているから、それでやってもらうというのも。

○秋山地域活動支援課長代理 実は大阪府がやっているみたいです。ただそれと言うと、できて鶴見の学校の数で言ったら1校来てもらえるかどうかか何かと言うてましたね。

○宗宮部長 もう1つの課題もあって時間のほう押していますので、ちょっとせ

かしますが、この４－１－２、４－１－１については、今、山下委員のほうからありましたように、評価の仕方についてもう一工夫がないと、正確な分析評価にならないのではないかというところは、ぜひ参考にさせていただきたいというふうに思います。

それと同時に、４－１－２については、３５．７％ということで、５５という数字に対する３５．７ということで区役所の自己評価してはるけれども、８ポイントアップというのは評価してもよいのではないかというご指摘があったということで、このところ次に進めさせていただいてよろしいですか。

それでは、４－２ 災害に強いまちづくりの評価について。西田会長、この災害に強いまちづくりの評価についてどうですか。

○西田委員 ４－２の。

○宗宮部会長 はい。今、１２地域で避難所開設をやっているということですが、実際には起こって見ないとわからないというような話なんですけれども、７０％以上というのが、ここ４０．５ということで、順調ということですが。

○西田委員 我々連合としては、正味もっと上のほうにいてと思うよ。うちもすごく力を入れているけど。特に災害に強いまちということでね、いろんな面でいつ、どう南海地震が来るかわからんというようなことで、人を救うとか、そういうことについてはね、災害来たらどうするんやということで、これはどこの連合でも力を入れてやっていると思います。

我々も、たまたま次の６月２６日やったかな、ちょっとやるんですけどね、それと区でやっている分と入れて、大体、最低少なくとも２回はやっていると思います。

それと、ちょっと変わるけれども、小学校の子どもの、これは災害じゃなしに土曜授業の一環として、交通のね、つながりの中で土曜日参観なんか入れてやって、いろんな視覚からとか車を使ってですね、運転台に乗って左を見たら子どもの背が低いから大人みたいに見えへんと。前に人がおってもわからんから車が行ってもうて、そういうことがあるということで、大変これは勉強になることやからね、大いにこれはも

うどこの連合もこれをぜひやってもらわんといかん。多分皆さんやっていると思います。多分それはどこでもやると思いますけど。とにかく一人一人がね、これについて皆さんがやはり感じる、経験をするということがもう一番大きなことだと思います。することによってまた人にも教えたりもできるということです。

それとまた話がちょっと飛びましたけど、この災害についても、今一番心配しているのは、独居老人とかひとり暮らしの人とかね、身体障がい者とか、そういう人をどうするかということが大事になっていますわな。そういう面では今の高齢者のいろいろ調査もやっていますけども、近隣の例えば町会長であり女性部長であり、あるいは何かの形でボランティアで手伝ってもらえる、それはやっぱり元気な人でなかったらいかん。例えばうちも住宅が多いんで、10階建てとしたら1階に1人ずつ班長さんがおります。班長さんだけではぐあいが悪いから、それにやっぱり中学生の子どももつけてもうて、見回りとか、やはりそういうことがきたときにはどうするかということをしっかり覚えていこうやないかということで、もう私は特に立場上、そういうことについてはね、うるさくやいやい言うてますんでね。当然、私だけやないと思うけど、皆さんも立場一緒やからやってると思いますけどね。とにかく人の命というのは一番大事やからね、これは何が何でもやっぱり助けんといけませんので、それなりに責任持っているいろいろな行動もし、またそういう訓練もどんどんやっていかんといかんかなというふうに感じております。

○山下副部長　　今、西田委員の話があったんですけども、何かあったときにどうすんねやという話をしたときに、我々町会なんかでもよく議題に上るのは、いやいや、区役所が守ってくれるから大丈夫という話が必ず出てくるんですよ。だから町会やらんでええねんみたいな話がね、これいまだに出てくるんですよ。だからコミュニティ育成とも絡んでくるかと思うんですけども、やっぱり自助、共助、公助と我々はわかって理解していますけども、この理解が進んでないという事実もあると思うんですよ。

そこのところをですね、もっとどういう形で浸透させていくかということを考えて

いかないといけないのかなと思うんですけど、防災計画とかというのを実際配られましたけど、じゃあ中見ているかと言うたら、見てないと思うんですね。区民がね。だから目につくチャンスを増やす方策とか、認知を広める方策とかというのが我々自身、地域の間人もそうだし、やっぱり行政としても必要性もあるかなと思うんで。と言うか、もうそこですわ、この防災に関しては、と思います。

○秋山地域活動支援課長代理　着実に、各地域のほうでも本当にいろいろと工夫をしてもらいながら、震災訓練でも、ちょっとずつ本当にバージョンアップしていただいて、昨年でいくと、これまで消防が中心でやってこられた応急担架とか、ああいう訓練のところも防災リーダーさんが中心となって、来られた方にやっていただくとか、そういうふうにどんどん伸びてきてるんですが、アウトカムのところには反映しないというのは、周知不足と言うか、区のほうも本当に知っていただく工夫が足りてないなと。そういうところが写っていけば、おのずと70までは、厳しいかもしれないですけど、いろいろと各地域も含めて、そういう災害に対して取り組んでいるというのが写せると思うんですけども、なかなかそれをどう広げようかというのは今年の課題かなというのは思っています。

○宗宮部会長　実際にはね、災害起こったときにどうやってんというようなことで、準備の段階での数字というのは、それほどあまり意味がないと言うか、28から40.5に伸びてるということは、それはそれとして評価してもええんと違うかなというのは、先ほどのことででも思うんですけどもね。

あと、西田委員が今、言うてはったように、連合の防災訓練ということで言えば、鶴見区内12連合ほぼ一定のレベルを上げてきてるというふうなことは言えるやろうと思うんですね。

あと、今、冒頭の説明の中で、区役所が初めて中学校に参加することができたというのを高く評価されてたということで、連合イコール老人と言うたら怒られますけれども、やっぱり現役世代や次世代に力点を移していくということが大事で、学校は避

難訓練を結構、年間行事の中で重点置いてやってはりますから、それと直接ということであるかないかというのはわかりませんが、学校との連携ということ、それから民間の事業所で、災害が起こったときにこういった体制が取れますよという情報を区役所がもう既に取りまとめてはるリストあるわけで、ボランティアのリストもあるわけで、それが具体の各連合の訓練の中にまだまだ連携ができていないということやろうと思いますんでね。福祉部会の要援護者名簿との連携ということも、独居老人が増えてくる中で、災害に対して非常にナーバスになってはるという世帯というのはあるわけですから、訓練の中でそういった目線がありますよということを発信していけば、今、言ってる周知ということが、宣伝のための宣伝やなくて、そういう取組みの中で浸透していくということがあるのかなということは思うんですけどね。やっぱり連合として一定レベルに達してきているということの中で、連合が防災リーダー中心にあるという形でバージョンアップしてるというのはそのとおりなんですけども、それプラス連合以外の人を受け入れる訓練、学校と連携していくという訓練のありようというのを、やっぱり来年に向けて、中学校へ入れたとすらっと言いはったけど、これ物すごい大事なことやろというふうに思いますんで、今、榎本でも中学校の防災訓練で防災リーダーが服を着てヘルメットかぶって参加するというレベルなんですね。なかなか一緒になって動けてるという状況ではなくて、ただやっぱり地域の防災リーダーとの連携が大事なんだよというアピールを榎本でやってるということなんですけども、そういう目線というのが大事なのかなというふうな感じもします。

それと、あと1点ね、備蓄なんですけども、榎本は専用の段ボールをビニールパックしたものを用意するとか、間仕切りのしやすいグッズを用意するというふうなこともやっているんですが、水の交換とかブランケットとかいろんな補助食とか、いろいろありますけども、予算のことが大阪市の場合どうしてもあって、毛布が何枚あったら足りてるのか、水が何リットルあったら足りてるのかというふうなことというのは、それはそれとして大阪市にやってもらわなあかんのですが、無制限に求めていったっ

て予算があるんで、どうしても限界があるということがあると思います。

5年前の東北と、今年の熊本ですね、こういった備蓄が有効やったんか、こういった備蓄が求められたのかというのが一定整理されてきた情報というのがあるというふうに思います。先日、ホームページとか見てたら、熊本は物すごい水どころやのに、水がとまってしもたということで、非常に困ったという情報があって、その一方で、千葉県なんかでは、さらし粉を常備してて、ちょっと古い水でも飲料水にできるというふうな形でやってた。水を備蓄するよりも、多少古くなっても、さらし粉があることで飲料水にできますよという千葉の備蓄の仕方って物すごく賢いなと思ったりしたんです。

各小学校の備蓄倉庫に入れてますけども、満杯にすれば校区の避難者を救えるという数では絶対にありませんので、やっぱり何がどれだけ必要とされてたのかというのを、ぜひ熊本の情報をきちっと整理して、また連合のほうへ返してもらおうということをお願いしたいなというふうに思います。

○山下副部長 熊本の話なんですけど、実際、区から行かれてますよね。その人らの話は非常に価値あるものになってて、それをちょっと生かす方法とか、やっぱりそこから掘っていけるものもあると思うんで。こうなんですよ、あんなんやったんですよ、実は行政はもう全然手が回らないですよというところを行政の人間が言うと。また避難所開設訓練で言うたって広まりに限界がありますよね。

○秋山地域活動支援課長代理 本当にどう広げるか。

○山下副部長 だからどう広げるかというのはちょっとね。せっかく体験してきたことなんだし、それを生かすという言葉を使っていいのかわからないですけども、戦法になることなんでね。

○秋山地域活動支援課長代理 実際、防災担当の2名ですね、村上主任と、今年防災担当になりました係員が早速志願してくれまして行ってまいりました。

あと、安全対策職員にも行ってもらったりで、合計4名と、保健師も行ってまいり

ましたけれども、ただ1点、私も報告後で聞いてびっくりしたんですけど、熊本のほうは、なかなかこれまで地震のことに対してあまり危機感が高い地域では実際なかったと思うんですけど、実は大阪市にありますような自主防災組織的なところ、例えばですけど、大阪でしたら日ごろから地域のほうで訓練もされてて、避難所を運営せなあかんねんというようなことを考えていただいているんですが、実はそこがなかなかできてなかったらしいんです。どちらかと言うと、行政とか学校中心で動いたみたいなんで、そこで言うと、ちょっと参考にならなかった。反面の例になるのかなと思うんですけど、実はそういうことはあったというのは聞いてます。

○山下副部長 何かネットでも、学校の先生、学校が大活躍とかというてますよね。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね。だからそれでいくと、宗宮部長もおっしゃっていただいたんですけども、最終的には学校も避難所になりますんで、実際には地域の方が中心となって避難所運営されると思うんですけど、学校も貸せるよというだけではないかなというのは思ってます。だからおっしゃっていただいたように、今後の訓練の中で学校の立ち位置と言うか、そこも入れながら、何かできないかなとは言っていたので、なかなか難しいかなというのは思っているんですけど、やっていかなあかんことやとは思っています。

特に、小学校でいくと、避難所のそういう訓練をしていただいているんで、まずうちが開けなあかんねんという認識持っていたいて。

○山下副部長 覚悟してはりますわな。

○秋山地域活動支援課長代理 あと、中学校、高校とは腰据えて話したわけではないんですけど。

○宗宮部長 テレビなんかでは、雨に向けてブルーシートで屋根を覆うという部隊が東北から行って大活躍とかというのが映ってたりなんかしましたけど、ボランティアもどういったところで有効やったんかというのも、現地に行かれた村上さんにゼ

ひ整理してもらって、また報告会をもっていただきたいなと思いますね。

もう時間ということではあるんですけども、田中さん、植田さん、ちょっと今日はお一言もいただいてないんですけども。

○田中（泰）委員　もう立派なご意見ばかりで感心ばかりしておりました。

○宗宮部会長　植田委員、よろしいですか。

○植田委員　質問したいことは全部おっしゃったので。私も気になったのは、達成状況の数値のところは鶴見区民全員、答えられない赤ちゃんとか、寝てはる高齢の方とかは難しいと思うんですけど、どういうところなのかなというのがやっぱり気になったところなので、さっきも数値が55に対して35・7というところは、本当にそのとおりだなと思ったんで、そういうところがわかれば、もっと手の入れ方とか、どういうふうに広報していくのかなっていうところのターゲットが見えてくるんじゃないのかなと思いました。

○宗宮部会長　今、植田委員から言ってもらいましたように、区役所のほうもね、数字を上げるための評価というのはしていないというのは、もうよく見えたんですけども、評価の仕方というのは、ポイント、何をめざしていくのかというところでは非常に重要なことやろうと思いますんで、評価の仕方については、精度の高いものということではぜひお願いしたいと思います。

ということで、よろしいですか。

では最後に区長、何かお一言いただきたいですけども。

○河村区長　途中からすみません。今日は初めての部会ということでしたけれども、いろいろご意見もいただいたようでございます。

防災の問題にしても、防犯の問題にしても、交通安全の問題にしても、やっぱり今の時代、一番身近な、区役所はもちろんのことですけども、地域と一緒に守っていかなあかん問題やと思っていますので、先ほど秋山代理も言っていましたけれども、その辺を本当に形だけじゃなくて、いざというときにどういくんや、やっていけ

るんやということを念頭に置いてやっていかなあかんということで、災害の問題にしても行ってきた人間がいますんで、ぜひともまたフィードバックさせていただきます。

僕らもまだフィードバックをしてもらってないんで、研修会も経た上で、またその成果を地域のほうにもお返ししたいなと思っていますので、よろしくお願いします。

○西田委員 さっきから出ているねんけど、積極的にやろうぜということでね、ずっと話ししてましたんや。

○宗宮部会長 あと、事務局のほうで連絡等、お願いします。

○前田地域活動支援課係長 本日は、本当に多くの貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

先ほどの議題の中でもご説明させていただいたところでありますが、委員評価シートにつきまして、再度確認をさせていただきたいと思います。

本日お配りいたしました委員評価シートにつきましては、各具体的な取組みにつきまして、おわかりになる範囲で結構でございますので、評価をつけていただきまして、ご提出のほうをよろしくお願いしたいと思います。

再度ではございますが、ご提出の期限ですが、お忙しいところまことに恐縮ですが、6月末までに区役所4階の総務課までご提出いただきますようによりしくお願いいたします。ご提出はメールでも結構でございます。ご協力のほどよりしくお願いいたします。

事務局のほうからは以上でございます。

○宗宮部会長 それではこれで、鶴見区区政会議第1回防犯・防災部会を閉会したいと思います。皆さんどうもありがとうございました。

閉会 20時55分